

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「住み慣れた地域で、その人らしくご家族との関係を保ちながら、最期まで幸福に暮らせるような支援」の理念に基づいて、職員の採用時カンファレンスで確認しあっている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念を共有し合っているが、日々の業務の中で確認しあう事が減ってきている。</p>	<p>申し送り、カンファレンスの中で、理念を意識づけしていきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>入居時には家族に説明し理解を得ているが、月日が経ち、理念を伝える機会が減ってきている。地域へも開所時には説明しているが、その後機会が減ってきている。</p>	<p>家族、地域へホーム便り、広報でアピールしたり、地域の行事へ参加し、関わりの中から認知症高齢者の理解を深めてもらう。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩の時、声を掛けて貰ったり、花や野菜を届けてくれる方がいる。 職員も、近所の方に挨拶するよう心掛けている。</p>	<p>ホームの行事に、地域の方に参加してもらえよう声をかけたり、地域の方との関わりを広げていきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の夏祭りへ参加したり、区協力費を納付している。</p>	<p>地域の行事に積極的に参加し、又、地域のこども会と連絡を取り、交流を深めていく。</p>

グループホーム・せせらぎの家(2Fユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>認知症について地域の方から相談を受けている。</p>	<p>認知症についての勉強会を開いたり、広報に認知症についての豆知識を掲載していきたい。</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員全員で自己評価に取り組み、意義を理解し、話し合いをしながら改善策を見つけ出している。</p>	<p>外部評価の結果をもっと実践にいかしていきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>出席者から意見を聞いたり、家族の想いを聞いている。 会議の中から書道教室が始まった。</p>	<p>運営推進会議を通じて、より一層地域に理解してもらいたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者は、必要に応じて市の担当者と連絡を取り合ったり、ケースの相談をしている。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者が職員に伝えたり、研修を受けた職員が会議で発表している。</p>	<p>今後も制度について理解を深め、必要な時には家族に伝えていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ホーム会で虐待防止関連法について学んだり、研修を受けた職員が会議で発表している。</p>	<p>今後も、虐待防止のために学習を深めていきたい。</p>

グループホーム・せせらぎの家(2Fユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		

グループホーム・せせらぎの家(2Fユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事の時等、状況に応じて必要な人数を確保している。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	フロアごとに職員を固定し、馴染みの関係を築いている。 新しい職員が入った時は、馴染みの関係が築けるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の計画を立てて、外部研修への参加の機会を設け、又、報告できるようにしている。		内部での研修の機会をもっと作っていききたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム交流会へ職員が交代で参加している。		グループホーム間での訪問もしていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、職員の話聞く機会を設けている。 休憩時間はあるが、休憩する場所がない。		職員の休憩場所を考え、工夫していきたい。

グループホーム・せせらぎの家(2Fユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>定期的に健康診断を行なっている。</p> <p>シフトの配慮をし、職員が疲労を溜めないようにしている。</p> <p>運営者がホームに来て、話を聞く機会が少ない。</p>	<p>運営者がホームに来てもらえるようお願いしていく。</p>
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居の申し込みがあった場合、本人と面談し、困っている事や不安に思っている事を聞いて相談にのっている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族からの相談があった時は、管理者や職員がじっくり話を聞き、又、利用につながらない場合も相談にのっている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>主に管理者が相談に応じ、必要に応じて他の施設やサービスを紹介している。</p>	<p>管理者だけでなく、他の職員も相談にのっていただけるようにしていきたい。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前まず見学してもらい、ある程度納得してもらってから入所していただいている。</p>	

グループホーム・せせらぎの家(2Fユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の豊富な人生経験から、昔ながらの風習や郷土料理を学び、日々の生活に活かしている。</p>	
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時、日々の様子を伝え、家族からの要望を聞くように心掛けている。</p>	<p>今後もより深い信頼関係を築いていく為に、気軽に話し合える雰囲気作りをしていく。</p>
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>面会時や、行事の時に一緒に過ごす時間を設けている。</p>	
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>利用者の希望を聞き入れて、電話や手紙、又地域の行事に参加し交流を図っている。</p>	
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>利用者一人ひとりの気持ちを尊重し、居心地の良い雰囲気作りに心掛けている。</p>	<p>一人ひとりの認知症レベル、個性にあったケアを行いより良い関係作りに努めていく。</p>

グループホーム・せせらぎの家(2Fユニット)

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>年賀状のやり取りを行なっている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者と関わりを持つ中で、本人の想いを聞き入れ、できる限り希望に添うように努めている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>利用者との会話の中より生活歴を把握し、又、家族からも情報を得ている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>行動や動作の中から感じ取り、理解しようと努力しているが、行き詰ったとき等状況に応じてセンター方式を活用し利用者の今の状況を把握するよう努めている。</p>		<p>できない事に目が行きがちだが、できる事に着目し、可能性を伸ばしていきたい。</p>
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の想いを取り入れ、ケアプランを作成している。</p>		

グループホーム・せせらぎの家(2Fユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月に一度評価している。又、本人の状態に大きな変化があれば、その都度見直している。		見直しの時に、家族の意見、希望を聞き、次のケアプランに反映していく。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し、身体の状態、日々の気づきを記入し、職員間で情報を共有している。それを基に、ケアプラン作成、見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、身体状況の変化を早めに捉え、主治医と連携をとっている。必要に応じて、受診の介助を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	書道、生け花、コーラスのボランティアが定期的に来所してくれている。どっこいしょ広場、市民会館での催し物、図書館に利用者と一緒に出かけている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、訪問理美容のサービスを受けている。定期的にフットマッサージのボランティアが来所している。		

グループホーム・せせらぎの家(2Fユニット)

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営推進会議に、地域包括支援センターの職員が参加し、情報交換ができるようになった。</p>		
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>主治医の往診を受けている。 入居前からかかっている医療機関の受診は、家族の協力を得ている。 受診結果について、家族と情報を共有している。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>運営者である医師が、認知症の人の医療に熱心で指示や助言、専門医の紹介をしてもらっている。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態に応じた対応をしている。 かかりつけ医の看護師とも連携がとれている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>最近入院したケースはない。 入院があった時に備えて、情報提供をして、早く退院できるように体制を整えている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>身体的な変化があった時や、入院した時に家族と今後について話し合う事が出来ている。 入居の際に、終末期や緊急時についての説明をしている。</p>		<p>現在、身体的に問題のない方についても家族と話し合いを重ねていき、今後の方針を決めていく。</p>

グループホーム・せせらぎの家(2Fユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	身体的に変化があった場合や、カンファレンスにおいて、職員間で今後について話し合いをしている。 緊急時、主治医に対応してもらえる体制をとっている。		
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	最近、退居して住み替える方がいない。 今後、退居があった場合はアセスメント・ケアプランを送る準備ができています。		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーや誇りを損ねない対応に心掛けている。 個人情報を漏らさないよう配慮している。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	基本的に利用者の希望に合わせて、外出・行動するよう心掛けている。 利用者が自分で決める場面を作っている。		

グループホーム・せせらぎの家(2Fユニット)

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりのペースで過ごしている。</p>		<p>一人ひとりの気持ちの内面にある要望や希望を引き出して、その人に合った支援をしていく。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>カットやパーマの希望があった時は、美容院に行けるよう支援している。 新しい洋服を買う時は、本人の好みのものを選んでもらっている。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>家庭菜園へ一緒に行き、旬の野菜を採って調理している。 食事の準備やおやつ作りの中で、できることを楽しみながら行っている。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人の希望に合わせ、アメやお菓子を一緒に買いに行っている。 おやつも、昔ながらの馴染みのおやき・五平餅・草もちなど楽しみながら作っている。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>その人の習慣や時間に合わせ、トイレ誘導を行なっている。</p>		

グループホーム・せせらぎの家(2Fユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている		それぞれの利用者の得意な事を引き出して取組んで行きたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		職員が、お金の管理をしている事が多いが、できそうな利用者へは所持できるように支援していく。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している		自分の気持ちを表現しにくい方々にも、外出の機会を持ってもらう。

グループホーム・せせらぎの家(2Fユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力を得て、温泉に行ったり、お宮参りなどを行なっている。		一人ひとりの希望を聴き、その希望を実現できるように取組んでいく。(親族の家、馴染みの場所、自宅など)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、電話の取りつぎを行なっている。職員を気にする利用者には、席を外すように配慮している。 手紙を書いている利用者には、出せるように配慮している。		親族や知人への手紙、年賀状を出せるように支援していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は特に設けておらず、いつでも気軽に訪れてもらっている。 一緒にお茶を飲んでもらったり、食事を摂ってもらったりしている。		居室以外にゆったりとお話できる空間を作りたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在は何も拘束していない。 会議などで研修会を受けた人の報告をしてもらっている。		今後も、勉強会を行なっていきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵をかけないようにしている。 一人で外出しようとしている時には、さりげなく声をかけ、一緒に外出できるようにしている。		

グループホーム・せせらぎの家(2Fユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜、職員は、台所やフロアにおり、全員の状況を把握したり、居室で過ごされている利用者にも声をかけに出かけたりしている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁、針、はさみ等は、使用時には見守り、使用後は本数などを確かめて片付けている。薬は、入居者の目の届かないように管理し、危険を防いでいる。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態に応じて、危険の予測をカンファレンス等で話し合っている。転倒しやすい利用者の履物、杖等を工夫したり、窒息の可能性のある利用者には、見守りを行なっている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命法の講習を年一回開いて、全員が受講している。		夜間の対応の見直しについても行なっていきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との協力を得て、訓練を定期的に行い、消火器の使い方など実施している。運営推進会議にて話題にして、働きかけている。		様々な状況を想定した訓練をしていきたい。マニュアルの見直し、確認をしていきたい。
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	起こりうるリスクについて、家族には説明している。家族の理解も得ている。		

グループホーム・せせらぎの家(2Fユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>定期的にバイタルチェック、体重測定を行い、異常の早期発見に努めている。</p> <p>異常のあった場合には、主治医に連絡を取り受診につなげている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>一人ひとりの使用している薬を表にして、服薬の支援を行なっている。</p> <p>薬の飲み忘れのないようにチェック表も作成している。</p>	<p>薬の目的や副作用等を、職員等で勉強していきたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>ヤクルトや、乳飲料などの飲み物、食べ物を工夫している。</p> <p>定期的な排便を促すように、トイレへの声かけを行なっている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>基本的に、毎食後歯磨きを促している。</p> <p>歯磨きの拒否のある方には、うがいを行なっている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>残食量を見ながら、食事の工夫をしている。</p> <p>固い食べ物が食べにくい方には、食べられそうなものを工夫して調理している。</p> <p>体調を見ながら、カロリーを考えた食事を支援している。</p>	

グループホーム・せせらぎの家(2Fユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員や来客者に、必ず手洗いの実施をしている。 地域の感染症状況の情報を職員で共有している。 職員、利用者共にインフルエンザ予防接種を受けている。		感染症予防対策の勉強会を行なっていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、ふきんは每晚漂白している。 食材の日までには、なるべく食品を使い切るようにしている。 残った食材は、日付や鮮度を確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりに花を生けたり、プランターを置いたり、季節感を出している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾り付けを利用者と作って飾っている。 フロアのTVの音、風の流れなどに配慮したり、心地よい音楽を流したりしている。		廊下の椅子の配置や、和室の活用を検討していく。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スタッフルーム前にテーブルと椅子を置き、テーブルの上に、新聞や雑誌を用意して、独りの時間を過ごしている。		

グループホーム・せせらぎの家(2Fユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>なじみの家具(仏壇、鏡台、使い慣れたソファ、人形など)を持ってきてもらい、その人らしい部屋になるよう工夫している。混乱しやすい方には、その人に合わせた物を置くようにしている。</p>		
<p>84</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>温度計と利用者の様子をみながら室温の調節をしている。換気をしたり、エアコンや床暖房を使い、調節している。トイレのゴミをこまめに回収し臭いが出ないようにしている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>調理台が高いため、テーブルで作業していただくようにしている。居室入口の取っ手が利用者には高いため利用者に合った高さに調節した。</p>		
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>居室の入口に名前を貼ったり、本人用の暖簾をかけたりして、居室が分かるようにしている。トイレの表示をして分かりやすくしている。</p>		
<p>87</p> <p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>畑へ行き、草取りや野菜の収穫をして楽しんだり、花壇の花を見るために散歩に出かけたりしている。2階のベランダから畑をながめて、話題にしている。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所に つけること)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

グループホーム・せせらぎの家(2Fユニット)

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に をつけること)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている
		少しずつ増えている
		あまり増えていない
		全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が
		職員の2/3くらいが
		職員の1/3くらいが
		ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が
		家族等の2/3くらいが
		家族等の1/3くらいが
		ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日常の会話の中から、利用者それぞれの思いをくみとりながら、その人に合った外出、活動をしている。利用者の感情の表出を大切に、見守ったり、ありのままに受けとめている。利用者一人ひとりが今まで生きてきた中で、培われた能力や生活スタイルに近い暮らしができるように支援している。